

演習内容届

法人・団体名	
--------	--

1 「3(4)介護技術」の内容

科目番号 演習概要	演習で使用する備品	台数	演習方法及び演習内容

- ※1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」(別添2-1)の科目番号を記載する。
- ※2 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に沿って定めるものとし、科目番号ごと、使用する福祉用具の種別ごと、又は、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、記載すること。
- ※3 備品については、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。
(概ね受講者7~8名に1台準備することが望ましい。)
- ※4 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

2 「3(5)住環境と住宅改修」の内容

事例の内容	演習方法及び演習内容

※1 「演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に沿って定めるものとする。

3 「4(1) 福祉用具の特徴」の内容

科目番号 演習概要	演習で使用する備品	台数	演習方法及び演習内容

- ※1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」(別添2-1)の科目番号を記載する。
- ※2 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に沿って定めるものとし、科目番号ごと、使用する福祉用具の種別ごと、又は、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、記載すること。
- ※3 備品については、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。
(概ね受講者7~8名に1台準備することが望ましい。)
- ※4 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

4 「4(2) 福祉用具の活用」の内容

科目番号 演習概要	演習で使用する備品	台数	演習方法及び演習内容

- ※ 1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」(別添2-1)の科目番号を記載する。
 - ※ 2 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に沿って定めるものとし、科目番号ごと、使用する福祉用具の種別ごと、又は、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、記載すること。
 - ※ 3 備品については、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。
(概ね受講者7~8名に1台準備することが望ましい。)
 - ※ 4 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

5 「4(3) 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント」の内容

事例の内容	演習方法及び演習内容

※1 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に沿って定めるものとする。

6 「5(2) 福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用」の内容

事例の内容	演習方法及び演習内容

※1 「事例の内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に記載されている事例（脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者に多い状態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与等の役割や多職種からの情報収集等による連携の重要性に対する理解が深まるもの）を含むこと。

また、複数の事例を作成し、演習に活用することが望ましい。

※2 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に沿って定めるものとする。

記載例

(別添 2-7)

演習内容届

法人・団体名	○○○○○株式会社	要領別紙2「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」の到達目標及び内容に沿って、 講師が実際に行う演習の方法及び内容 を記載すること。 記載にあたっては、講師と十分に調整すること。
--------	-----------	--

4 「4(2) 福祉用具の活用」の内容

科目番号 演習概要	演習で使用する備品	台数	演習方法及び演習内容
4(2)① 起居・移乗動作の場面	スライディングマット	5	・1グループ5~6人に分かれて、ギャッジアップ機能やベッド用手すりを使用してのベッドからの起き上がり動作、スライディングボードを使用して車いすへの移乗、・・・などの実習を行い、福祉用具の使用方法を習得させる。
	スライディングボード	5	・実習はグループ単位で行い、福祉用具を利用しての移乗動作について、講師の指導の下、受講者間でも互いに確認しながら・・・・技術の習得を図る。
	介助用ベルト	5	・○○○を使用して○○の実技を行うことで、介護者に負担が少ない介助の方法、・・・等の技術を習得し、利用者及び介助者に安全な使用方法を伝えること等についての演習を行う。
	特殊寝台	5	・○○○・△△△の組み立て、使用方法、安全に使用するための点検技術を習得させる。・・等
	サイドレール	5	
	ベッド用手すり	5	
4(2)① 移動動作の場面	車いす	6	・歩行器、車いすの操作、・・・の実習を行う。
	歩行器	5	・○○○・△△△の組み立て、使用方法、安全に使用するための点検技術を習得させる。
	歩行補助杖	6	・2人1組になって、利用者に合った福祉用具の選定・適合の演習及び利用者・家族に対して使用方法を説明する場面での演習（操作方法・留意点の説明・実技等）を相互に実施する。・・・等
4(2)② 入浴、排泄場面	簡易浴槽	4	・1グループ5~6人に分かれて、福祉用具を利用しながら演習を行う。
	入浴用いす	6	・使用者の体格、障がい等の部位や程度などをイメージしながら、状態像に合わせて福祉用具を選定し、体格等に合うように、高さ等の調節を行うなど、適合技術を体得させる。
	入浴台	4	・○○用具の組み立てを行うとともに、安全に利用するための点検技術を習得させる。
	ポータブルトイレ	4	・実習はグループ単位で行い、講師の指導の下、グループ内で使用方法や選定の際の留意点等の確認を行いながら、実習を行う。・・・等

<演習で使用する備品一覧表>

- ※1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」(別添2-1)の科目番号を記載する。
- ※2 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙2)に沿って定めるものとし、科目番号ごと、使用する福祉用具の種別ごと、又は、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、記載すること。
- ※3 備品については、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。
(概ね受講者7~8名に1台準備することが望ましい。)
- ※4 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

6 「5(2) 福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用」の内容

事例の内容	演習方法及び演習内容
事例 1 ・脳卒中による右片麻痺 ・要支援○ ・・・・・	1. 個人演習として、受講者に、○事例のうち1つの事例に関する課題を与える。 受講者は、事前に、事例に基づいて、アセスメント、利用目標の設定、福祉用具の選定を行い、福祉用具貸与計画書等を作成する
事例 2 ・多発性脳梗塞、廃用症候群、褥瘡 ・要介護○ ・・・・・	2. 事例ごとに、1グループ○人のグループに分かれ、事前に作成した福祉用具計画書等の内容について、個人ごとに発表し、グループ内で○○○、△△△について討議・・・・する。 講師は、各グループの討議内容、○○○、及び福祉用具貸与計画等に対し、助言・指導を行う。
事例 3 ・左大腿骨骨折、認知症 ・要介護○ ・・・・・	3. 事例ごとに、グループで検討した福祉用具貸与計画書等の内容を発表し、講師は、発表内容についての解説、・・・・・・・を行う。 4. 2人1組になり、利用者・家族やサービス担当者会議等における福祉用具貸与計画等の説明及びモニタリングに関して、ロールプレイングによる演習を行う。

事例は、別紙2「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」に記載にあるもの（下記※1）とし、複数の事例を作成すること。

要領別紙2「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」の到達目標及び内容に沿って、講師が実際に実行する演習の方法及び内容を記載すること。
記載にあたっては、講師と十分に調整すること。

※1 「事例の内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に記載されている事例（脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者に多い状態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与等の役割や他職種との連携に関する理解が深まるもの）を含むこと。

また、複数の事例を作成し、演習に活用することが望ましい。

※2 演習については演習教材を活用する。

※3 「演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に定めるものとし、「福祉用具専門相談員指定講習 指導要領」を参照する。